

見てわかる 令和 8 年度 加賀市当初予算のあらまし

目次

はじめに

- | | |
|--------------------------|-----|
| 1. 予算ってなに？ | …1 |
| 2. 令和 8 年度の予算額はいくら？ | …2 |
| 3. 令和 8 年度の一般会計の予算額の内訳は？ | …4 |
| 4. 借金残高はいくら？ | …8 |
| 5. 貯金残高はいくら？ | …9 |
| 6. 市民 1 人あたりではいくら？ | …10 |
| 7. 「家計簿」に例えると？ | …11 |

は じ め に

加賀市では、市政についてより関心を持っていただくことを目的として、市の予算や借金、貯金をグラフや家計簿などで表した「見てわかる加賀市当初予算のあらまし」を作成しています。

この冊子を通して、市の予算や事業についてご理解をいただければ幸いです。

令和8年5月

1. 予算ってなに？

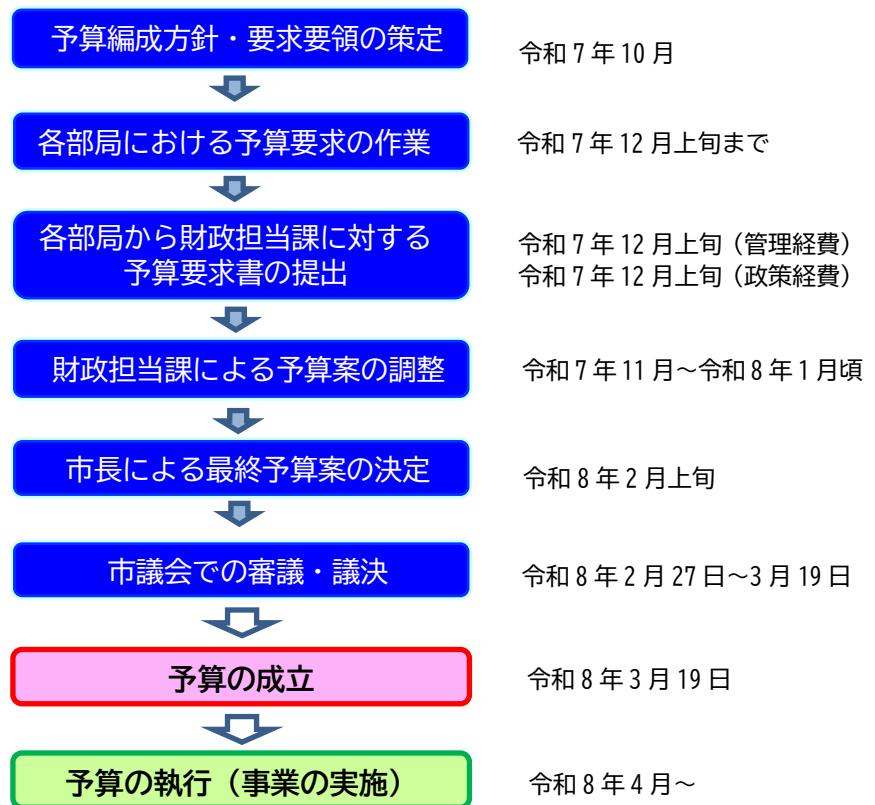
◇予算とは？

加賀市に1年間（4月から翌年3月まで）に入ってくる収入を見積もり、その使い道を決めるのが予算です。予算を見れば、1年間にどのような収入を見込み、何に使おうとしているかが分かります。

◇予算はどのように決まるの？

予算は次のように、市長が予算案を作り、市議会での審議・議決を経て決まります。

(加賀市の令和8年度当初予算の場合)



◇どのような予算があるの？

予算は、どの収入がどこに使われているのか、収入と支出の関係をはっきりさせるために3つの種類（一般会計、特別会計、企業会計）に区分しています。

- 一般会計・・・福祉、教育、環境衛生、道路整備など基本的な行政サービスを行う会計です。
- 特別会計・・・保険料や使用料など特定の収入によって、特定の事業を行う場合などに設ける会計です。加賀市には現在、次ページに記載した5つの特別会計があります。
- 企業会計・・・民間企業と同じように事業収益で賄われることを基本とする会計です。加賀市には現在、病院事業、水道事業、下水道事業の3つの企業会計があります。

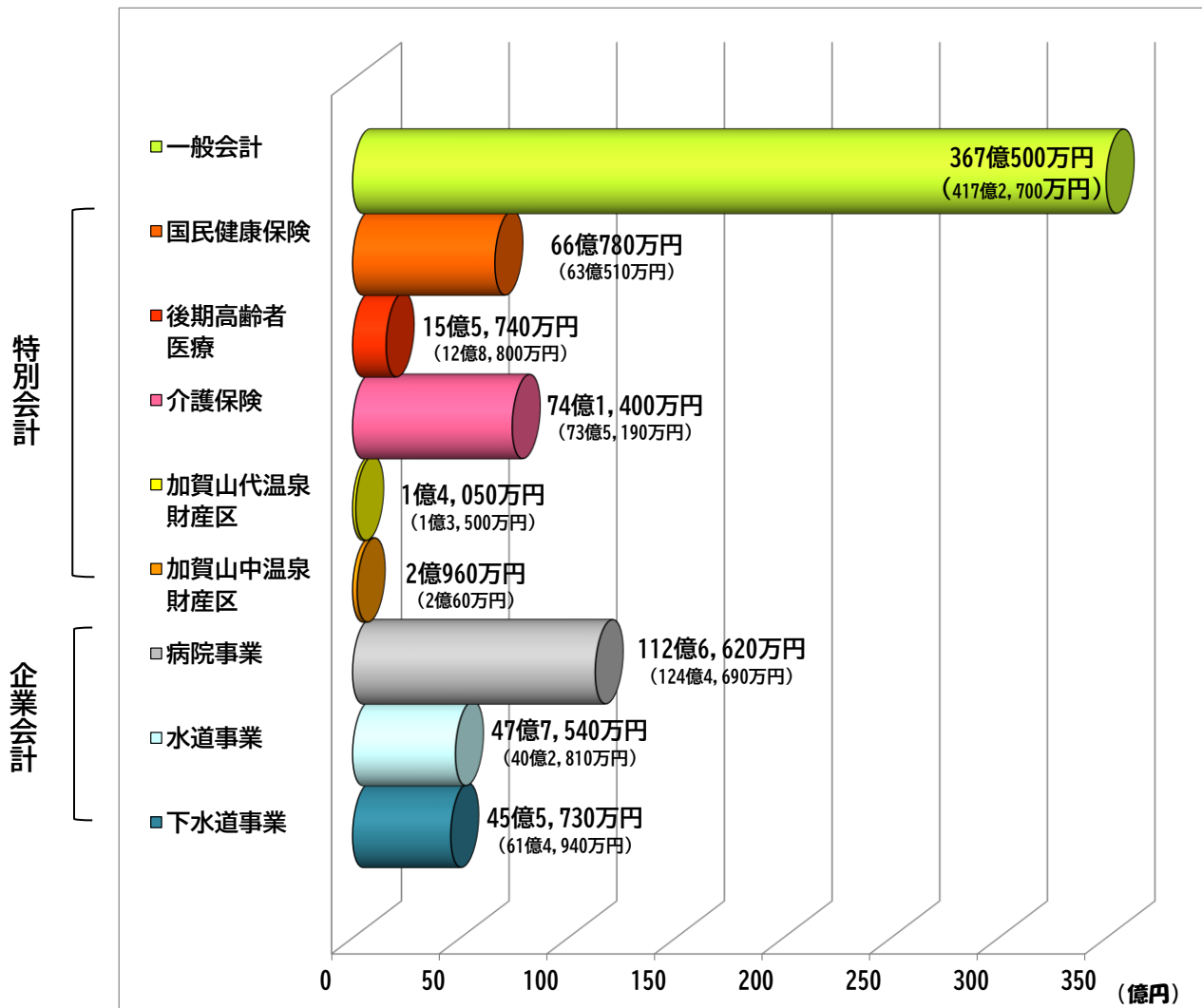
2. 令和8年度の予算額はいくら？

令和8年度は、「もっと住民が幸せな加賀市」の実現に向けた5つの柱に沿い、予算編成を行いました。

1. スピーディーに声が届く、わかりやすい身近な政治
2. 未来へ繋ぐ強くしなやかな財政
3. 加賀市の魅力の磨き上げ
4. 子供に幸福、県ナンバーワンの教育都市の実現
5. 医療福祉・交通・防災の質を高める

○ 全会計	732億3,320万円	(令和7年度 796億3,200万円 伸率△8.0%)
○ 一般会計	367億500万円	(令和7年度 417億2,700万円 伸率△12.0%)
○ 特別会計	159億2,930万円	(令和7年度 152億8,060万円 伸率+4.2%)
○ 企業会計	205億9,890万円	(令和7年度 226億2,440万円 伸率△9.0%)

※ () 内数値は令和7年度当初予算額です。



◇ 令和 7 年度と比較すると予算はどう変わったの？

市の予算額は事業の開始や終了などにより、年度ごとに増減します。

令和 8 年度と令和 7 年度の予算額を比較して、一般会計と大きな変化があった会計について見ていきます。

一般会計

加賀温泉駅周辺施設整備事業や屋外プール整備事業などの大型事業が令和 7 年度で完了することに伴い、令和 8 年度は普通建設事業費が大きく減少し、前年度当初予算比で 50 億 2,200 万円の減少となっています。

国民健康保険特別会計

被保険者の所得の伸びや子ども・子育て支援金の増加に伴う国民健康保険税の増加などにより、3 億 270 万円の増加となっています。

病院事業会計

病院事業会計から一般会計に旧加賀市民病院施設の固定資産を移管することに伴い、特別損失（簿価と売却価格の差額）が増加していますが、当初借入から 10 年で借換を行う民間資金の借換債が減少となったことから、11 億 8,070 万円の減となっています。

水道事業会計

山中浄水場の耐震化事業の実施や、病院事業へ長期貸付を行うことにより、7 億 4,730 万円の増加です。

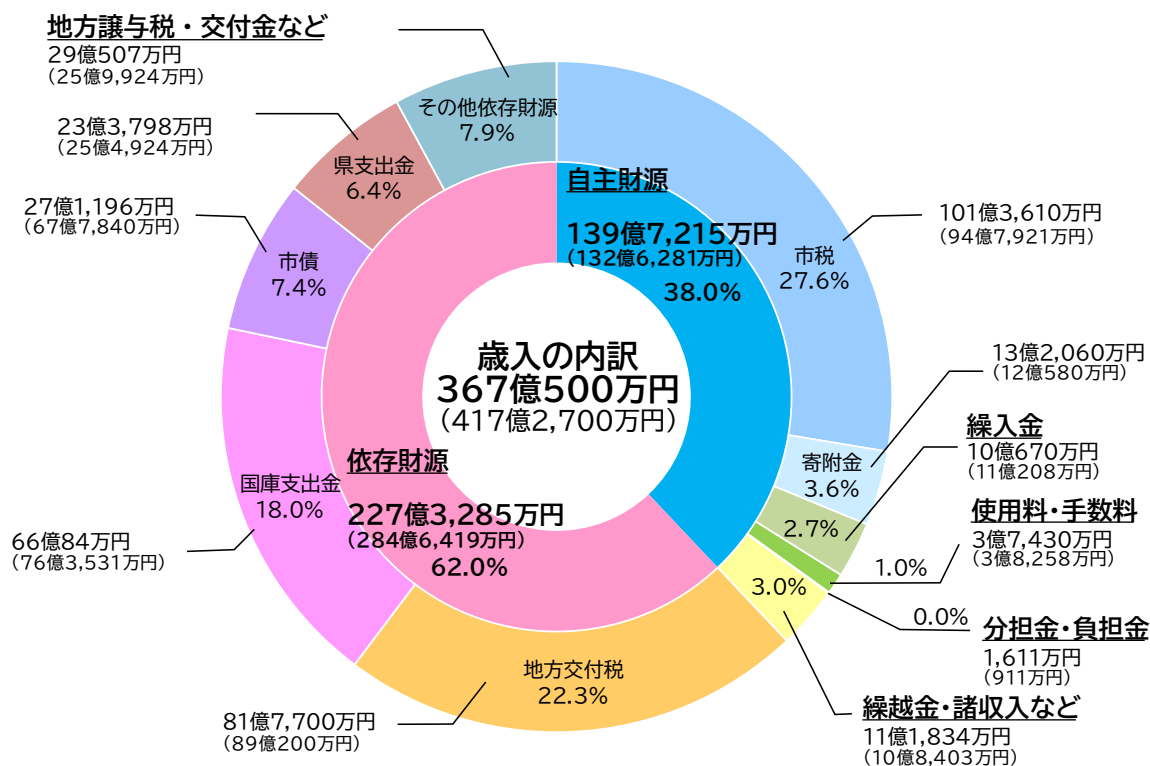
下水道事業会計

更新時期を向かえた加賀市浄化センターを廃止し、大聖寺川浄化センターに処理場を統合する下水道処理施設の統合事業費が前年比で減少したことに伴い、15 億 9,210 万円の減少です。

3. 令和 8 年度の一般会計の予算額の内訳は？

(1) 歳入

◎ 歳入を種類別に区分し、更に自主財源と依存財源に分けて見ると次のようになります。



※ () 内数値は令和 7 年度当初予算額です。

※ 一円未満を四捨五入しているため合計が合わない場合があります。

自主財源 139 億 7,215 万円 (構成比率 38.0%)

市が自主的に収入できる財源のことで、市税や負担金、使用料、繰越金などです。この割合が高いほど財政が安定し、自律的な財政運営ができることとなります。

令和 8 年度は、市税が市民税や新幹線関連施設の固定資産税の増加に伴い増加したことや、ふるさと納税寄附金の増加により、令和 7 年度と比較すると 7 億 934 万円の増加です。

依存財源 227 億 3,285 万円 (構成比率 62.0%)

国や県等から交付される財源のことで、国・県支出金、地方交付税、市債などです。

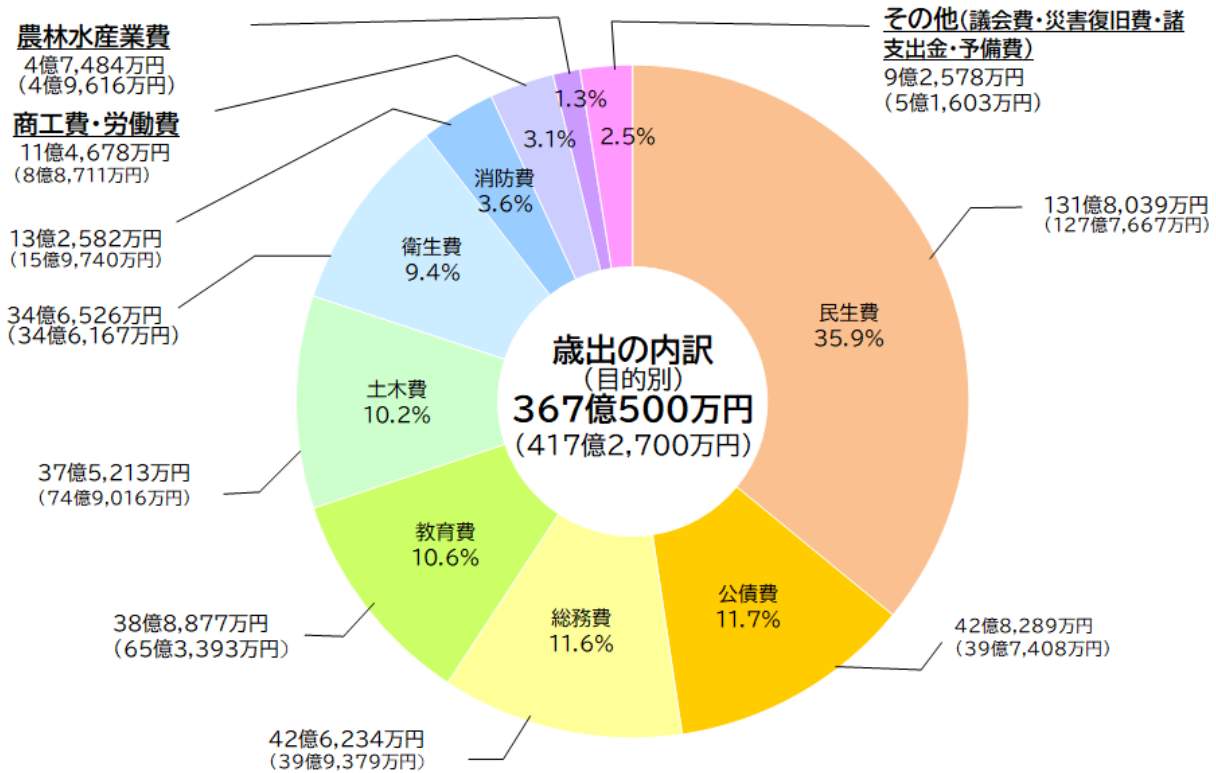
加賀温泉駅周辺施設整備事業や屋外プール整備事業などの大型事業が令和 7 年度で完了することに伴い、事業の財源となる国庫支出金や市債が減少することから、令和 7 年度と比較すると 57 億 3,134 万円の減少です。

(2) 歳出 (目的別予算)

◎ 歳出を行政目的別に区分すると次のようになります。

※ () 内数値は令和7年度当初予算額です。

※ 一円未満を四捨五入しているため合計が合わない場合があります。



○ 目的別予算のうち主なもの

民生費 131 億 8,039 万円 (構成比率 35.9%)

民生費とは、高齢者、障がい者、児童、生活保護などの福祉に要する経費です。

令和7年度と比較すると、公定価格の改定に伴う保育園費の増加や、高齢者医療費、生活保護費、心身障害者福祉費の増加に伴い、全体では約4億円の増加です。

公債費 42 億 8,289 万円 (構成比率 11.7%)

公債費とは、市の借入金の返済に要する経費です。

令和7年度と比較すると、ほっと石川観光プラン推進ファンド出資(5年満期一括償還)の返済に伴い、約3億1千万円の増加です。

総務費 42億6,234万円（構成比率 11.6%）

総務費とは、まちづくりの推進、公共交通、電算システムの運用などに要する経費です。

令和7年度と比較すると、選挙費(国政選挙、地方(県知事、市長・市議選挙)や、統計調査費(国勢調査)が減少したものの、基幹系システム(住民サービスに直結する福祉、介護などの中核的な業務を処理する情報システム)の国が示す標準化の費用の増加に伴い、全体では約2億7千万円の増加です。

教育費 38億8,877万円（構成比率 10.6%）

教育費とは、学校教育、生涯学習、スポーツ振興、文化振興などに要する経費です。

令和7年度と比較すると、社会教育施設整備費が加賀市文化会館の設備改修費や山中温泉文化会館の解体費の増加により増加したものの、体育施設整備費が屋内プール整備事業費の皆減、武道館整備費の減少により減少し、全体では約26億5千万円の減少です。

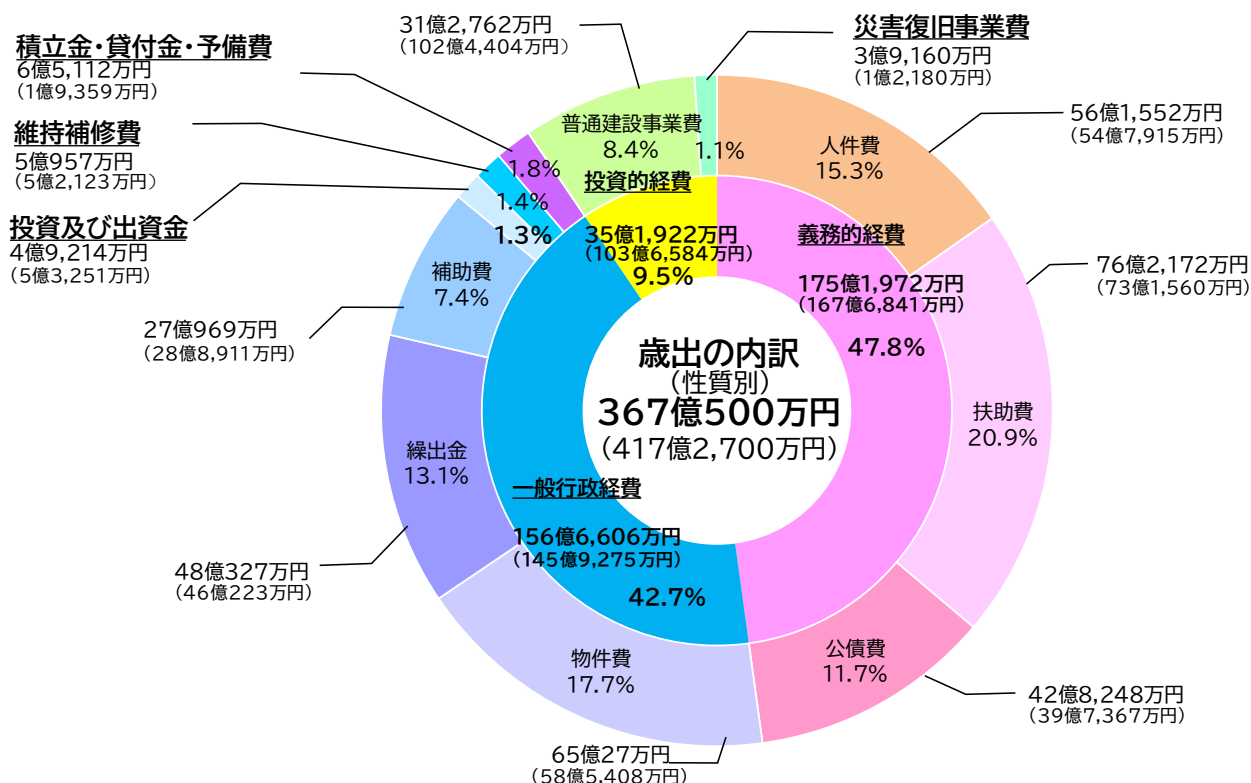
土木費 37億5,213万円（構成比率 10.2%）

土木費とは、都市計画の策定、道路、河川、公園の整備や維持管理などに要する経費です。

令和7年度と比較すると、都市計画費が加賀温泉駅周辺施設整備費、あいうえおの杜整備費の皆減により減少したほか、空家等対策費が片山津の廃業旅館の解体費の皆減により減少したことから、全体では約37億4千万円の減少です。

(3) 歳出 (性質別予算)

◎ 歳出を経済的な機能や性質から見た性質別経費として区分し、更に義務的経費、一般行政経費、投資的経費に分けて見ると次のようになります。



※ () 内数値は令和7年度当初予算額です。

※ 一万円未満を四捨五入しているため合計が合わない場合があります。

義務的経費 175 億 1,972 万円 (構成比率 47.8%)

義務的経費とは、法令の規定や経費の性質上、支出が義務づけられている経費であり、任意に削減できないものです。具体的には、児童・高齢者・生活保護者などの生活支援にかかる扶助費、市職員給与などの人件費、市の借金を返済するための公債費のことで、この割合が低いほど建設事業やほかの様々なサービスに多くお金を使えることとなります。

令和7年度と比較すると人件費、扶助費、公債費全てが増加し、約7億5千万円の増加です。

一般行政経費 35 億 1,922 万円 (構成比率 42.7%)

一般行政経費とは、施設の管理費などの物件費、各種団体への負担金・補助金などの補助費等、施設の維持補修費や、特別会計への緑出金等のことです。

令和7年度と比較すると、基幹系システムの標準化に係る費用や、物価高騰に伴い各種経費が増加したことにより、約10億7千万円の増加です。

投資的経費 103 億 6,584 万円 (構成比率 9.5%)

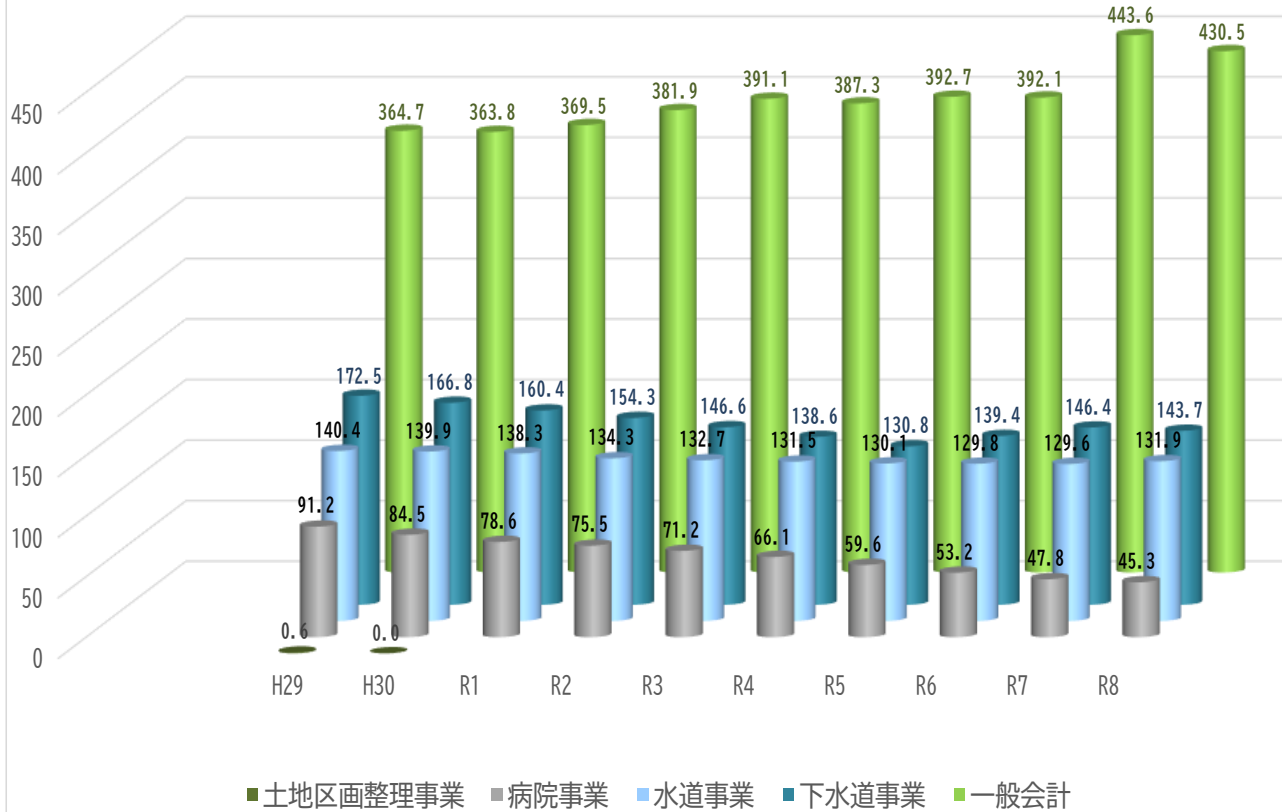
投資的経費とは、その支出が社会資本形成に向けられるものです。具体的には、道路や公共施設の整備等の普通建設事業のほか、災害復旧事業に充てられる費用のことを指します。

令和7年度と比較すると、大型事業である加賀温泉駅周辺施設整備事業や屋外プール整備事業の完了に伴い事業費が皆減となったことにより、約68億5千万円の減少です。

4. 借金残高はいくら？

加賀市の市債残高の推移(H29~R8)

単位：億円



※ R6 までは決算、R7・R8 は予算に基づく見込みです。

※ 土地区画整理事業特別会計は平成 30 年度末で廃止しました。

市の借金は、市債といいます。

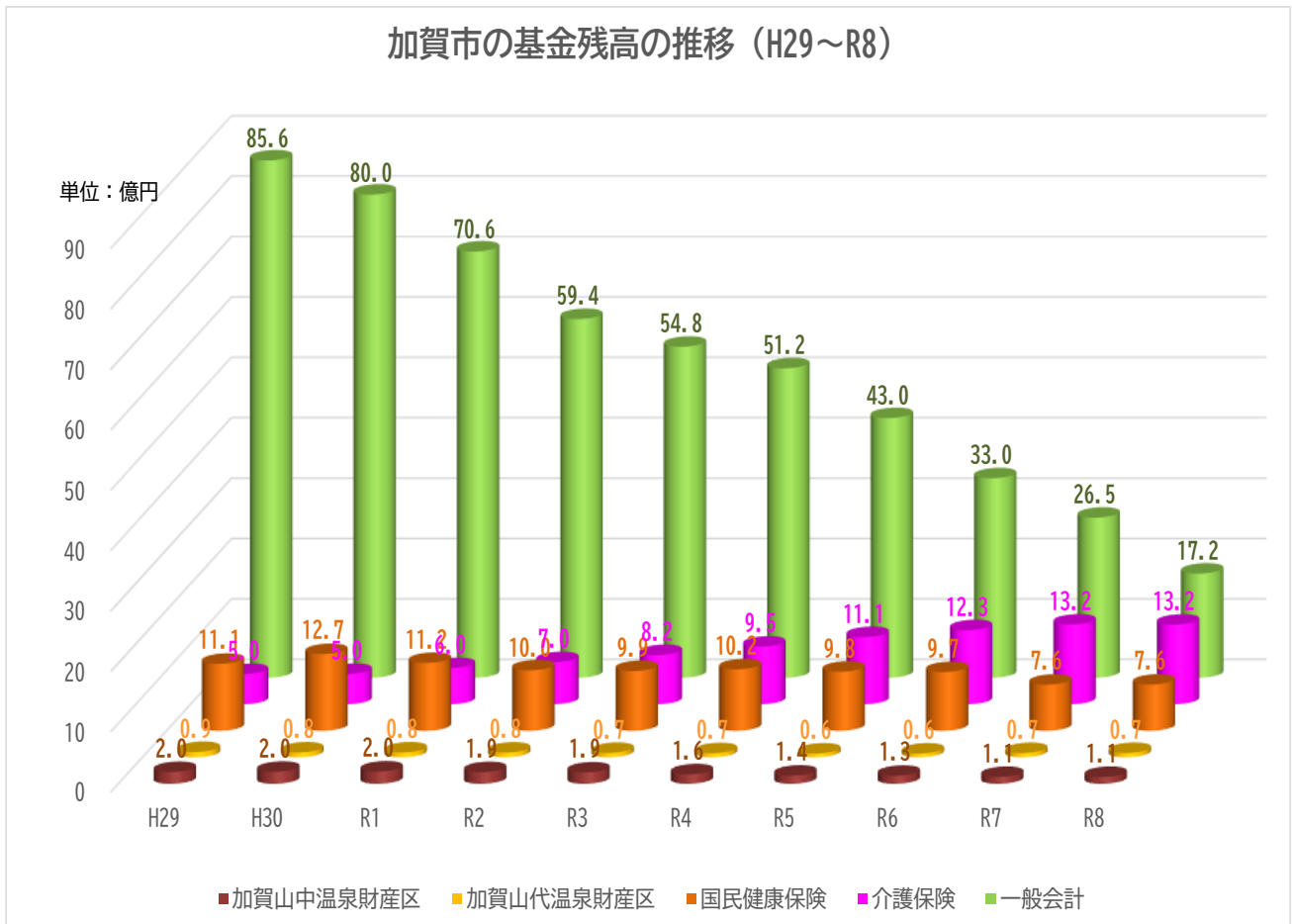
加賀市では、一般会計、病院事業会計、水道事業会計、下水道事業会計の計 4 つの会計で市債を発行しています。

一般会計では、令和 7 年度に加賀温泉駅周辺施設整備事業や加賀市屋内プール整備事業、加賀市武道館整備事業等の大型事業の財源として市債を発行するため、令和 7 年度に残高が増加する見込みです。

下水道事業会計では、令和 6 年度に大聖寺浄化センターの資産及び負債について、県から移譲されたことに伴い、令和 6 年度に市債残高が増加しているほか、現在実施している下水道処理施設の統合事業の財源として市債を発行することから残高は増加する見込みです。

病院事業会計では、平成 28 年度に開院した加賀市医療センター建設事業等の市債償還が進むことにより残高は減少する見込みとなっています。

5. 貯金残高はいくら？



※ R6 までは決算、R7・R8 は予算に基づく見込みです。

市の貯金は、基金といいます。

加賀市では、一般会計、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、加賀山代温泉財産区特別会計、加賀山中温泉財産区特別会計の計5つの会計で基金を積立っています。











全会計を合計した基金残高は、平成17年度の合併以降、平成28年度までは増加傾向にありましたが、平成29年度以降は減少傾向にあります。

これは、一般会計において、新型コロナウイルス感染症のまん延に対する経済対策事業や、未来への投資のための事業の財源として、財政調整基金や重点事業推進基金の取崩しを行ってきたためであり、近年一般会計の基金残高は大きく減少しています。

今後も物価高騰や人件費の増加により、各種経費が増加することが見込まれるほか、災害発生時などの不測の事態の際には財源として財政調整基金が必要となることから、持続可能な財政運営のため、一般会計の基金残高を確保することが重要になると考えられます。

6. 市民1人あたりではいくら？

○一般会計の予算を市民1人あたりに換算すると、約60万円になります。

予算の使いみち	令和8年度予算		市民1人あたりの予算(※2)
民生費 <small>(高齢者、障がい者、児童、生活保護のために)</small> 	131億8,039万円	35.9%	21万6,601円 (20万7,124円)
公債費 <small>(市の借入金の返済のために)</small> 	42億8,289万円	11.7%	7万383円 (6万4,424円)
総務費 <small>(まちづくりの推進、公共交通、電算システム等のために)</small> 	42億6,234万円	11.6%	7万46円 (6万4,744円)
教育費 <small>(学校教育、生涯学習、スポーツ振興、文化振興等のために)</small> 	38億8,877万円	10.6%	6万3,906円 (10万5,922円)
土木費 <small>(都市計画の策定、道路、河川、公園等の整備のために)</small> 	37億5,213万円	10.2%	6万1,661円 (12万1,424円)
衛生費 <small>(健康診断や予防接種、ごみ処理等のために)</small> 	34億6,526万円	9.4%	5万6,947円 (5万6,118円)
消防費 <small>(消防、防災対策のために)</small> 	13億2,582万円	3.6%	2万1,788円 (2万5,896円)
商工費・労働費 <small>(商工業、観光振興、労働福祉のために)</small> 	11億4,677万円	3.1%	1万8,846円 (1万4,381円)
農林水産業費 <small>(農業、林業、水産業振興のために)</small> 	4億7,484万円	1.3%	7,803円 (8,043円)
その他の行政費 <small>(議会運営や基金積立等のために)</small> 	9億2,579万円	2.6%	15,214円 (8,366円)
合計(※1)	367億500万円	100%	60万3,195円 (67万6,442円)

○ 市民1人あたりの借金残高、貯金残高は次のとおりです。

区分	令和8年度末残高見込み	
		市民1人あたりの残高(※2)
全会計の借金残高	751億4,118万円	123万4,839円 (124万9,748円)
うち一般会計の借金残高	430億4,864万円	70万7,443円 (71万1,951円)
全会計の基金残高	39億9,133万円	6万5,592円 (8万464円)
うち一般会計の基金残高	17億2,448万円	2万8,339円 (4万3,248円)

※1 一万円未満を四捨五入しているため合計が合わない場合があります。

※2 令和7年度予算、令和7年度末残高を、令和8年1月1日の住民基本台帳に基づく人口(60,851人)で割って算出しています。()は令和7年度の数値です。

7. 「家計簿」に例えると?

○ 一般会計の予算（367億500万円）を年収536万円（1月あたり44万6,667円）の家計に置き換えています。

※厚生労働省実施の「2024年国民生活基礎調査」による全国の世帯平均所得が536万円であることから536万円の家計に置き換えています。



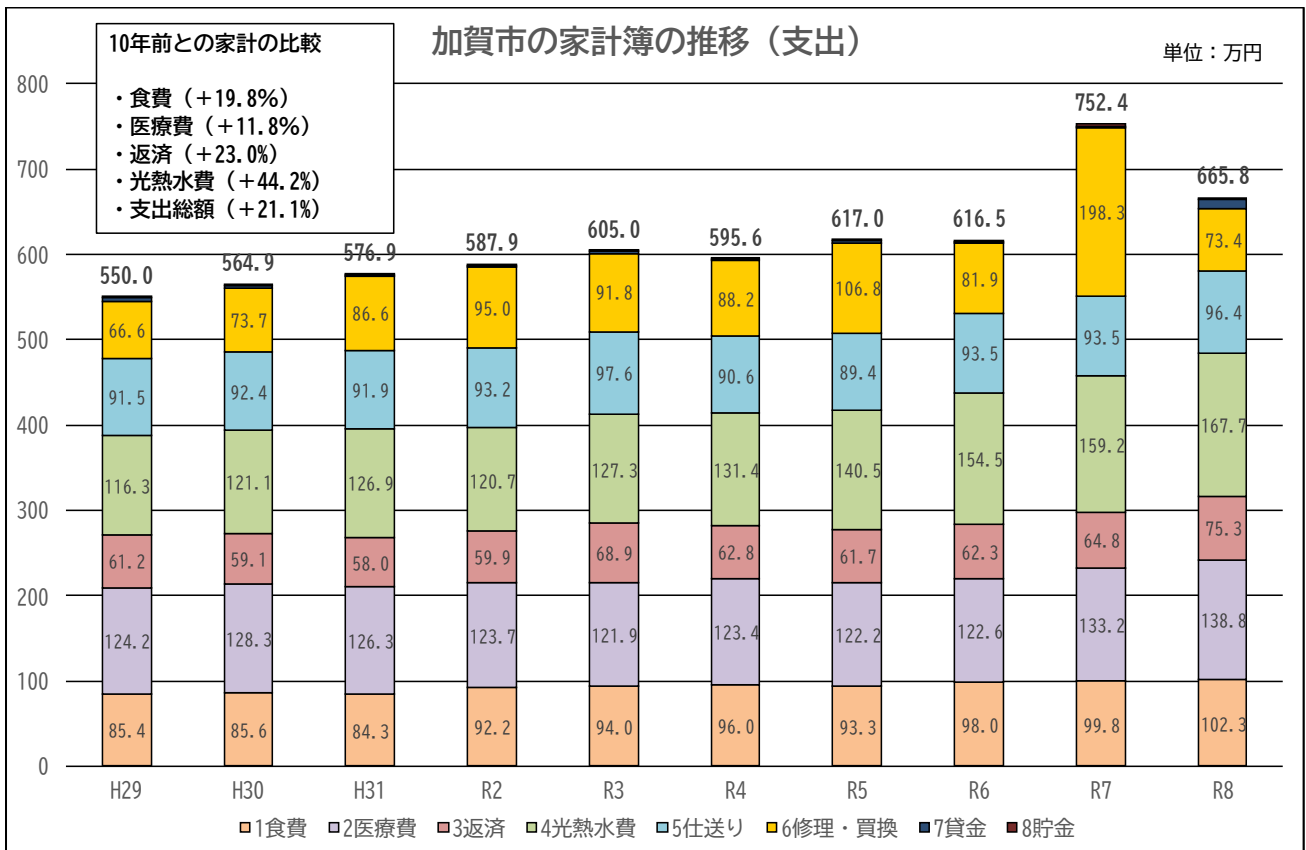
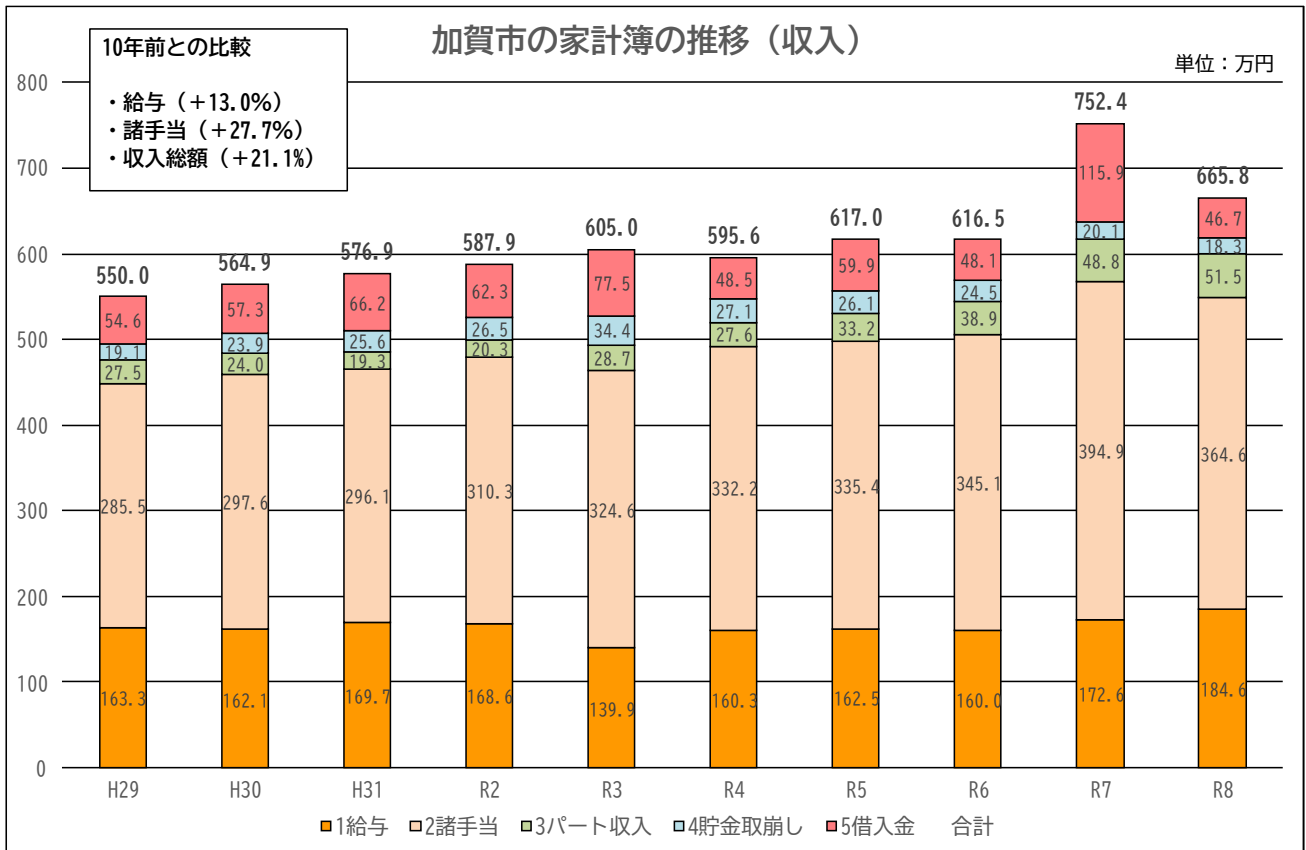
【加賀家 1ヵ月の家計簿】

《 収 入 》		《 支 出 》	
給与 (市税)	12万3,347円	食費 (人件費)	6万8,336円
諸手当 (地方交付税、国県補助金等)	24万3,636円	家族の医療費・教育費 (扶助費)	9万2,749円
パート収入 (使用料・手数料等)	3万4,431円	ローンの返済 (公債費)	5万2,114円
貯金の取崩し (繰入金)	1万2,251円	光熱水費や通信費など (物件費、補助費等)	11万2,077円
銀行からの借入 (市債)	3万3,002円	子どもへの仕送り (繰出金、投資・出資金)	6万4,440円
		家・車・電化製品の修理、買い換え (維持補修費、普通建設事業費)	4万9,027円
		親戚へ貸すお金 (貸付金)	6,813円
		貯金 (積立金、予備費)	1,111円
計	44万6,667円	計	44万6,667円

○一般会計予算を年収536万円の家計に置き換えた場合の令和8年度末の借金残高、貯金残高（見込み）

全会計の借金残高	1,097万2,803円	全会計の貯金残高	58万2,851円
うち一般会計の借金残高	628万6,356円	うち一般会計の貯金残高	25万1,824円
家計に対する割合	117.3%	家計に対する割合	4.7%

近年の家計簿の推移は？



※厚生労働省実施の「2017年国民生活基礎調査」による全国の世帯平均所得が551万6千円であることから、平成29年の所得を端数調整し550万円としています。また、借換債の発行及び繰上償還金は除いています。

10年前の家計の規模を550万円とした場合の、10年間の家計の推移を見ています。

(収入)

収入のうち主なものとしては、

・給与（市税）	184.6万円 (+13.0%)
・諸手当（地方交付税、譲与税、国・県補助金等）	364.6万円 (+27.7%)

となっています。

市税（給与）は、令和7年度からの都市計画税の税率改定や、北陸新幹線敦賀開業に伴う関連施設の固定資産税の増加などにより、増加しています。

(支出)

支出のうち主なものとしては、

・食費（人件費）	102.3万円 (+19.8%)
・医療費（扶助費）	138.8万円 (+11.8%)
・光熱水費（物件費、補助費等）	167.7万円 (+44.2%)

となっており、総額では665.8万円(+21.1%)となっています。

人事院勧告や、会計年度任用職員の処遇の見直しに伴う人件費（食費）の増加、福祉関係費の増加に伴う扶助費（医療費）の増加、燃料費高騰や物価高騰に伴う物件費等（光熱水費）の増加のため、支出が増加しています。

全体的には、支出総額の増加に見合うほど、市税（給与）が増加していないため、今後の財政運営に留意する必要があります。

見てわかる
令和8年度
加賀市当初予算のあらまし

作成：令和8年5月

編集：加賀市総務部財政課財政グループ

（〒922-8622 石川県加賀市大聖寺南町二 41 番地）

TEL：0761-72-7805

E-mail：zaiseikakari@city.kaga.lg.jp

HP：<http://www.city.kaga.ishikawa.jp/>